



いわきの子

第58号
H31.3.5
岩城小学校
文責：齋藤

今年度最後の「あいさつ運動」を行いました

これまで岩城小学校では、学校だけでなく地域にも“あいさつの輪”を広げようと、毎月『あいさつ運動』を行ってきており、開校5年目の今年度も、保護者や地域の皆様呼びかけながら、あいさつを交わしてきました。



3月1日(金)朝、穏やかな天気の下、今年度最後の『あいさつ運動』を行いました。当日は、朝7時15分頃から、たくさんの保護者や地域の方々が学校に駆けつけてくださり、玄関前で子どもたちをあいさつで迎えてくれました。

以前も紹介しましたが、これまでのあいさつ運動や、毎朝の児童委員会による校内あいさつ運動などの取組によって、校内では「おはようございます」「こんにちは」と明るく元気にあいさつできる子どもが確実に増えてきました。子どもたちのがんばりを讃えるとともに、あいさつ運動にご協力くださいました

保護者や地域の皆様感謝申し上げます。しかし、残念ながら、まだ校内でお客様と無言ですれ違う子どもがいるなど、来客へのあいさつは依然として合格点は付けられない状態です。

岩城小学校のすべての子どもたちが、“いつでも どこでも だれにでも”明るく元気なあいさつができるように、来年度も全校一丸となってあいさつ運動に取り組んでいきたいと思ひます。そして、地域全体にも、もっともっと“あいさつの輪”を広げていきたいと思ひますので、ご家庭や地域でも、子どもたちに積極的に声をかけてくださいますようお願いいたします。特に保護者の皆様には、子どもたちが家庭で「おはよう」や「おやすみ」、「いってきます」、「ただいま」などの基本的なあいさつが毎日元気にできるように、粘り強くご指導くださいますとともに、外出先でも知人に積極的にあいさつするなど、子どもの見本になってくださいますようお願いいたします。



なお、これまで『あいさつ運動』は、毎月1日に行ってききましたが、今年度は月初めの1日が休日の日が多く、また台風の影響で臨時休校になるなどして、実施できたのが5回しかありませんでした。そこで来年度は、1日が休日の月は次の出校日に行くことにし、できるだけ毎月『あいさつ運動』を行いたいと思ひます。来年度もよろしくお願ひします。

調理員さんありがとうございます



3月4日(月)給食の時間、給食委員会担当の「調理員さんありがとうございますの会」を行いました。岩城小学校の給食は、岩城学校給食センター(旧亀田小学校の隣り)で作られて運ばれてくるので、普段は調理員さんの姿を

見かけることはありません。そのため、全校児童に調理員さんを紹介し、感謝する会を開きました。ありがとうの会は、給食委員長のあいさつで始まり、調理員さんの紹介後、代表児童が一人ずつに感謝のお手紙を手渡しました。

調理員さん、いつも栄養満点でおいしい給食をありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



図書委員会お話タイム (3月1日(金))



3月1日(金)の給食の時間に、図書委員会主催の「お話タイム」がありました。

今年度図書委員会は、「七夕」「お月見」「節分」の時期にお話タイムを行ってきており、今回の「ひな祭り」が4回目となりました。

お話タイムでは、図書委員会の女子が、ひな人形の絵を使いながら、ひな祭りの由来や祭りに込められた願い、ひな人形の衣装の移り変わりなどを詳しく説明してくれました。

いつの時代でも、どんなおひな様であっても、親が女の子の健やかな成長を願う気持ちは変わりません。岩城小学校のみんなが、健やかにたくましく成長できるといいですね。

いわきっ子活躍しています!

☆ 第31回森吉山スキー大会
(2月23日)

《小学校6年男子の部 大回転競技》

【第3位】 佐藤 ※ ※ さん

☆ 第20回森吉山スラローム大会
(2月24日)

《小学校5・6年男子の部》

【第6位】 佐藤 ※ ※ さん

☆ 第9回由利本荘市民スキー大会
(2月24日)

《スノーボード小学校4～6年男子の部》

【第1位】 小林 ※ ※ さん

どう思いますか?

(秋田魁新報「きょうの言葉」(H25.7.1)より)

子供が育つには、時には辛い事実も必要なのです

いしやどうしん なかはらりゅうのすけ きんぎよごころ
「お医者同心 中原龍之介 金魚心」
和田 はつ子

子供がかわいいからといって、何でもかんでも子供の言うことや、したいことばかりをさせることには賛成できない。

というのも、子供は、将来、社会人として生きていかなければならないからである。

いうまでもなく、社会にはしきたりもあるし、守らなければならない約束事などがあって、子育てとは、子供をそれに“適応”できるように教育することでもあろう。

そこで、時としては、子供の意にそわないことでも、親や周囲の人たちは、それを受け入れさせなければならない。

我慢することや努力することや、他人や社会のために奉仕するというようなことなどについても、折にふれて、子供をリードすることを心掛けようではないか。

それが次の世代を育てることでもある。

かわいいからといって、なんでも子供の思うようにさせていると、子供は“わがまま”や“世間知らず”になるだけのこと。

結果として、周囲から敬遠されてしまったり、“利用”されるだけだったりする。

それでは子供がかawaiiそうではないか。

和田はつ子氏は作家。

(コラムニスト・秋庭道博)

豆知識

《大勢一小勢 多勢一無勢》

「空港にはおおぜいの人が集まった。」“おおぜい”を漢字で書くなら「大勢」それとも「多勢」でしょうか? 「多」は、訓読みでは「多(おおい)」ですが、熟語の「多勢」は「おおぜい」ではなく「たぜい」と読みます。「おおぜい」は漢字で書くなら、「大勢」です。



「多勢」も「大勢」もたくさんの人数を指すのは同じ。ただし、反対語が違います。「多勢」とペアになるのは「無勢(ぶぜい)」です。「多勢

に無勢」という慣用句がありますが、相手が多すぎて、立ち向かってもとてもかなわない様子を表します。もともと、「無勢」といっても、人数が無(ゼロ)というわけではありません。「無いのと同じくらい少ない」の意味です。「大勢」の反対は「小勢(こぜい)」。戦いを描いた物語で、人数の少ない軍勢を表すときなどに出てくる言葉です。

人数を言う場合は、「多(た)人数一少(しょう)人数」、「大(おお)人数一小(こ)人数」の組み合わせも使われますね。

ところで、大勢を「たいせい」と読むと、物事や世の中のおおよその様子の意味になります。「〇〇選手は先発出場し、後半、試合の大勢が決まった後で退いた」など、記事でもよく用いられる言葉です。

(読売新聞：読売プレミアムより)